

平和行動in沖縄

青年の目から見た沖縄

連合は6月21～23日「つくろう平和な世界、21世紀」をスローガンに、2000余名の参加者と共に、2002平和行動in 沖縄を実施しました。本土復帰30周年の沖縄慰霊の日にあたり、20万余の沖縄戦犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、平和と軍縮・核兵器廃絶、基地の整理・縮小への取り組みに全力を尽くすことを誓いあいました。

この取り組みに連合群馬青年委員会を代表して茂木委員長(JR総連)内田副委員長(自動車総連)が参加し、青年の目からみた沖縄の感想を寄稿してくれました。

「透明で民主的な公務員制度 改革を求める請願署名」 にご協力ください。

昨年12月に政府が決定した「公務員制度改革大綱」は、特権的な官僚制度には手をつけず、国民に批判されている天下りを制度化するなど、キャリア官僚を一層厚遇するものとなっています。



さらに、組合と十分な話し合いを行わないまま能力・業績評価による「新人事院制度」を強引に導入しようとしています。また、組合が求める評価制度に関する4原則(公平・公正性、透明性、客観性、納得性)と2要件(労使協議と苦情処理制度)については受け入れようとしていないのです。

そのため、連合と連合官公部門連絡会は政府「大綱」の撤回と透明で民主的な公務員制度をめざした署名運動に取り組んでいます。

群馬においても現在、連合群馬官公部門連絡会の主体的な取り組みとして、各構成組織に署名のお願いをしているところです。また、6月29日(土)には全国一斉キャンペーンとして県内街宣行動と前橋・高崎・藤岡で街頭署名を行い、400名余りの署名を集めました。構成組織へお願いしている署名は7月末を最終集約としていますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

編集後記

異動して来て早一ヶ月。今までの仕事内容とは180度以上も違う上に、なんと!!!'あぶろうち'の制作担当者になってしまった。一体どうしたことだろう? 勤続10年目にして、起こった出来事に目が回りそう。日々時間があっという間に過ぎていく。1日24時間だけだなんて悲し過ぎる……。

イ姉

失われた一〇年という言葉が使われて久しい。元々は一九八〇年代に、経済低迷に喘いだ中南米諸国で使われたもののような気がするが、バブル崩壊後の日本経済を示す言葉として使われている。

連合群馬の県民アンケートの結果でも、最近の景気低迷を反映し雇用対策や景気対策を求めるものが上位を占めている。

今日の経済状況を招いたのも政治であれば、それを解決し得ないのも政治である。国会は会期末を迎え、健保改正(悪)法案・有事関連法案などが焦点となっているが、景気回復・経済対策など国民が求めるニーズに対し、審議を尽くす課題は山積している。

ワールドカップでは人気取りのパフォーマンスに終止し、その裏では国民に痛みを押し付ける小泉内閣は許すことは出来ない。

「2002連合平和行動in沖縄」に参加して

沖縄が本土に復帰してから30年。しかし国内の米軍施設の75%が今も存在し、多くの方々は日々不安を抱えながら生活しています。

57年前、国内唯一の地上戦が行われ20数万人の尊い命が奪われた沖縄で、多くの戦跡をまわり、平和の大切さと命の尊さを感じました。



いま国会で、有事関連三法案が議論されています。小泉首相は「備えあれば憂いなし」と発言をしていますが、これは戦中、戦後において大きな犠牲を強いられてきた沖縄の人たちの心を踏みにじるものであり、許すわけにはいきません。全戦没者追悼式で首相が献花をした時、「有事法制反対! 沖縄ではまだ戦争は終わっていない」と叫んだ方がいました……当然だと思います。

平和オキナワ集会の講演では、ひめゆり学徒隊の島袋淑子さんが当時の状況を涙ながらに語ってくれました。当時のことを話すのはとてもつらいことだと思います。しかし、戦争を経験した方々は年々歳を取っていきます。島袋さんはそんなつらい思いを私たち若い世代に伝えるため、「当時の軍国教育により、何も言えない状況がつけられてしまった。軍隊は私たち国民を守ってはくれない。過去の悲惨な歴史は繰り返してはならない」と話をして下さいました。胸が痛くなると同時に、二度とこのような悲劇を起こしてはならないと感じています。

沖縄の本土復帰30年と国会の有事法制議論。この意義深い年の6月23日を沖縄で迎えられたことは、今後の自分達にとって本当に意味のある事だと思います。

そして、私たち自身、これから労働組合として何をすべきなのかを真剣に考えていく必要があると思います。また、連合群馬青年委員会としても、過去の悲惨な歴史をしっかりと若い世代に継承する取り組みを考えなければならぬと強く感じました。

非常に良い経験をさせていただき大変ありがとうございました。



せらねのいばり